

ヤマニシ、商船の修繕事業強化

■ 燃料系代理店エイテックと提携、外航船も注力

ヤマニシ（宮城県石巻市）は、商船の修繕事業を強化している。東京事務所を昨年10月に再開したことに加えて、今年7月から船舶燃料改善剤の販売代理店などを手掛けるエイテック（東京都港区）と提携して、従来は少なかった外航商船の修繕営業にも注力。修繕ヤードのドックが世界的にひっ迫する中で、船主の修繕ニーズに応える考えだ。東北の地の利を活かした修繕船の受注拡大も図り、沖修理を含めた年間修繕隻数は現在の約100隻から「120隻を目指したい」（ヤマニシの阿部晃二取締役付）と意気込む。

ヤマニシは、今年7月から福島嘉満代表取締役が立ち上げたエイテックと提携し、ヤマニシの東京事務所（杉本正人所長）とエイテックの福島氏の2人体制で在京での修繕営業を行っている。福島氏は機関部の船員出身で、遠心分離機の営業を長年手掛けた経験があり、船主との広い人脈を修繕営業に活かすのがねらい。外航船は主にエイテックの福島氏、内航船は主に東京事務所長の杉本氏が修

繕営業を担当する。エイテックの福島代表取締役は「当社の顧客にもドックに入渠できなくて困っているという声を聞いており、そうしたニーズに応えていきたい」と話す。

船舶修繕のメニューの充実も図っている。その1つがバラスト水処理装置の搭載工事で、既に3隻の工事を手掛けた。船種も漁船や台船・曳船、貨物船のほか、タンカーやRORO船、フェリー、ガット船など幅広い船種の修繕に対応可能だ。「RORO船などの手間のかかる船種を多く手掛けてきた経験が生きている。設計を持たない修繕ヤードも多いが、当社は設計も置いており、改造工事も対応できる」（ヤマニシの杉本氏）という。

東北随一の大型修繕ドックや7万坪の広い敷地を持つこともヤマニシの強みだ。ドックは中間仕切りを入れて、内航船であれば4隻同時に入渠することも可能だ。東北地方の電力会社向けをはじめ

とした地の利を活かした修繕船の受注も目指す。また、広大な敷地を活かして洋上風力発電関連の艀装品の製作や取付実績もある。

ヤマニシは2020年



ヤマニシの工場全景

1月、東京地方裁判所に会社更生法の適用を申請した。もともとは3万重量トン以下の外航船やコンテナ船、内航のRORO船などを建造する新造船事業が主軸で、当初は新造船事業を含めた再建を目指していたが、スポンサー選定の難航により断念。人員体制を70人規模にスリム化し、船舶修繕事業と鉄構造物製造事業による再建計画を進めている。

現在は7カ年の再建計画の2年目で、年間売上高は20億円程度だが、債務返済も順調に進んでおり、収益基盤の強化を急ぐ。また、新造船事業の休止後も進水までの船殻工事を下請けで請け負った実績もあり、技術の維持・継承も図っている。ヤマニシの阿部晃二取締役付は「造船業は裾野が広い産業なので、地域の産業に貢献・恩返しができるよう謙虚に頑張りたい」と話す。

ヤマニシの主要設備

設備	寸法(m)	総トン	用途	敷地面積
1号船台A	63.0×12.5	1,000	修繕	245,108㎡
1号船台B	57.0×12.5	500	修繕	
2号船台	117.4×22.5	1,200	修繕	
3号船台	166.0×28.0	16,000	新造	
艀装岸壁	365	—	修繕	
ドライドック	170×36×8	18,000	修繕	

トタル、スコットランド最大の洋上風力が一部稼働

トタル・エナジーズはこのほど、スコットランドのアンガス沖のシーグリーン洋上風力発電所が発電を開始したと発表した。計114基の風車のうち、1基目が23日早朝に稼働した。全面稼働は2023年前

半を目指す。

同発電所はアンガス沖27km、水深59mに建設され、総発電容量は1057MW。スコットランド最大の洋上風力発電所かつ世界で最も深に着床式洋上風力発電所となる。

全面稼働すると年間発電量は約5TWhとなる見込みで、160万世帯分に相当する。

同発電所にはトタルが51%、SSEリニューアブルズが49%出資している。